



目指す府中の将来像

府中市が目指す将来像を総合計画で創り、その将来像への道筋を計画・ビジョンで示します。

スポーツ推進計画

健康ふちゅう21

地域福祉計画

障害者福祉計画

子ども・子育て支援事業計画

ランドデザイン

地域IoT実装計画

産業振興ビジョン

観光振興ビジョン

第2回目10月広報掲載

第1回目9月広報掲載

第3回目

府中市地域IoT実装計画

計画の背景と目的

府中市は、総務省の令和元年度地域IoT実装のための計画策定・推進体制構築支援事業の支援対象となり、府中市地域IoT実装計画により、

2つの分野で、地域の課題解決と新たな価値創造を実現していきます。

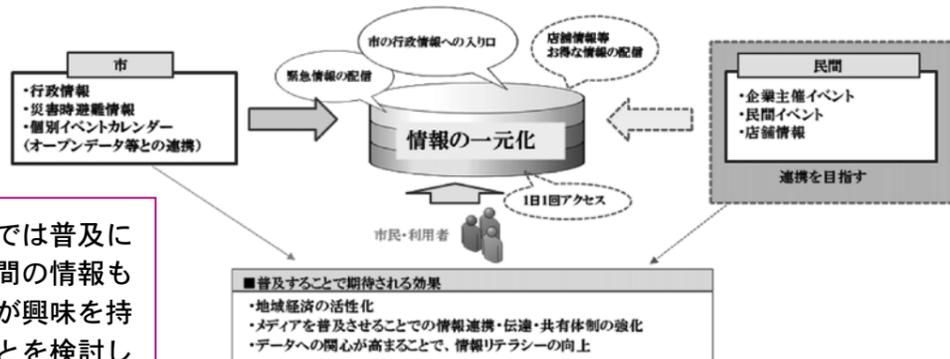
1 防災分野

平成30年7月の西日本豪雨災害は、府中市でもこれまでに経験したことのない規模の災害であり、災害対策本部の体制や、避難情報、被害情報や道路情報などの情報連携、伝達、共有体制など、多くの課題が残りました。

の強化のために、令和3年度末（予定）までに、非常時の備えにもなる新たなツールの構築・導入を実施し、令和4年度（予定）には、より情報にアクセスしやすくなるよう情報の一元化を実現するツールの提供を目指します。

この計画での防災分野では、情報連携、伝達

情報の一元化に向けたプラットフォームの検討

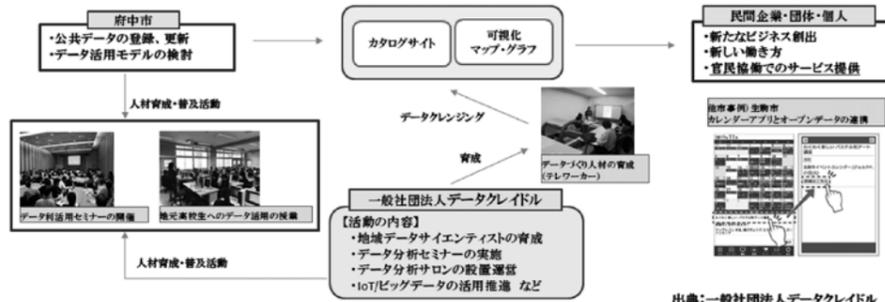


ツールで発信する情報

行政情報 + 民間の情報 + 地域の店舗情報 など

オープンデータの導入

避難所や公共施設一覧などのデータを地図情報に掲載し、災害時の行動をよりイメージしやすくし、日ごろからの防災に対する意識向上を図ります。防災以外にもデータ化することで2次利用が想定されるデータから取り組んでいきます。



データ活用事例を、セミナーや地元学生へ知ってもらう取り組みや、データクレンジングを行うテレワーカーの育成、データ分析を学ぶワークショップの開催などデータ利活用人材の育成にも取り組みます。

2 農業分野

全国と同様に府中市でも、農業者の減少や高齢化が進んでいて、体力面の負担軽減や農業を継続していくことが課題となっています。

目指すのは、今の農業を支える高齢者にとって負担となっている農作業における重労働を、

IoT導入によって省力化し、持続可能な農業へつなげていくことです。また、IoTを導入し、地域連携により共同利用する仕組みを作ること、コストの縮減、地域全体の生産性向上を目指します。

事業内容

府中市では農家の約8割が米の生産を行っています。稲作の作業工程は多岐にわたりますが、田植えや稲刈りはすでに機械化されています。その中で、防除作業は、機械化はされてはいるものの、機器を背負ったり、散布ホースを引

張ることが重労働として残っています。

持続可能な農業を実現するため、重労働作業を解消する必要があることから、完全自動飛行ドローンによる水稲防除作業の実装に取り組む予定としています。

- 多くの時間がかかっていた重労働作業の大幅な時間短縮
- 操縦資格を必要とせず完全自動飛行とすることで、作業への体力的負担を軽減

しかし、ドローンの導入には価格や操作資格がネックとなっている。

操縦資格不要の完全自動飛行ドローンを導入し軽減

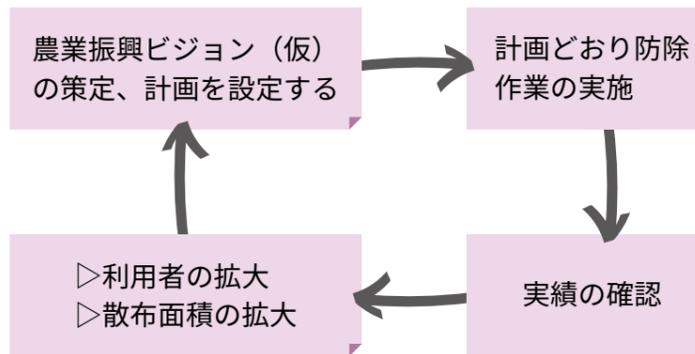


ドローン導入による効果の目標

ドローン導入による防除面積の目標値と、それによる作業時間の削減の目標値を下表のようにしています。

ドローンによる防除面積の目標値	防除作業時間の目標数値
利用団体につき10ha	目標値… 1ha当たり0.6時間 現状値… 1ha当たり3時間

計画実行と効果測定の流れ



この他にも市では、小児科・産婦人科のオンライン相談、観光地におけるWi-Fi整備、ICTによる鳥獣対策（檻・わな）、ICTリテラシー普及促進、Web会議・RPA・AI会議録の導入をしています。さらに、今後、教育用ドローンを用いたプログラミング教育、電子図書館グレードアップ事業、窓口のキャッシュレス化、AI子どもの見守り、GIGAスクールインフラ構築、高速情報通信網の整備を進めていきます。